

国産旧車の御法度

「速くて快適な国産旧車」。まさに、ジャバニーズ・クラシックのニュー・スタイルを生み出すショップが、愛知県岡崎市にある「ロッキーオート」だ。オーナーの渡辺氏が生み出す車両は、ハイブリッドモーターや2Jエンジンを積んだトヨタ・2000GT・レプリカを筆頭に、これまで国産旧車の世界ではご法度とされてきたレイトモーターへのスワップが施されている個体が多い。クラシックなエクステリアに、日常的な使い勝手を加えたニュースタイルのモディファイ手法には賛否両論あるだろうが、少なくとも国内外に熱狂的な信者を抱えるのは間違いない事実である。

Unlawfully Machines



三車三様の撃破り

オリジナルに忠実であることは、国産旧車ファンにとって、ことさら重視される点であるのは間違いない。しかし、「ロッキーオート」が生み出すクルマは、そんなオリジナル至上主義の国産旧車とは一線を画す魅力を放っている。レイトモデルのV8モーターへスワップした240Z。ATで楽しむラグジュアリーなケンメリ・GT-R。さらに足回りからエンジンまで徹底したアメリカン・チューニングにより生まれ変わった240Zまで。まさに撃破りのモディファイが目を惹く「ロッキーオート・スタイル」の国産旧車たちだ。

最初に紹介するのは、日米を問わず、世代を超えてファンの多いダットサン240Z (HLS30)である。極めて程度の良い個体をベースに、'70sテイストを見事に再現したこの車両は、驚くことにパワーユニットにGM製の5.7リッター・V型8気筒エンジンを搭載。しかも、まるでオリジナルユニットの様な美しさで搭載されている。ドナーは1993年型ポンティアック・ファイヤーバード・トランザムで、当時最強スペックを誇ったハイパフォーマンス・モーターのLT1をベースに、メカニカルチューンを加えたスペシャルに仕上げられている。

そんなハイスペックモーターとは裏腹に、エクステリアには1970年代アメリカの雰囲気が見事に再現されているのも、この個体のポイントだ。前後のサイドマーカーやオーバーライダー付のバンパーは、北米モデルならではの意匠である。加えて、これまた程度の良いサイドモールが見事にボディ

ラインを引き締めているのも見逃せない。プッシュロッド・V8特有のエンジンサウンドが違和感なくマッチしているのは、これら北米輸出仕様による秀逸なエクステリアの出来栄えによる所も大きいだろう。

続いて紹介するのは、今では簡単に入手することができないKPG C110、いわゆるケンメリGT-Rだ。そもそも個体数が200台にも満たない希少なマシンであるが、この個体は「ロッキーオート」にて、入念にレストレーションされた個体であり、ベースはスカイライン200GTのハードトップである。

もちろん、この個体も美しく再現された單なる「R仕様」というワケではない。ラグジュアリーなケンメリR仕様を目指して完成された車両には、やはりV8がスワップされているのだが、こちらはアメリカ製のプッシュロッド・V8ではなく、なんと国産の1UZ-FEなのだ。クラウンマジェスタやセルシオに搭載された4リッターのV型8気筒エンジンには、これまたトヨタ製のATが組み合わされており、モーター共々ジェントルな乗り味を実現している。

ケンメリGT-Rとは比較にならない静かでスムーズな走りを見せる一方、ハイスピードのワインディングでもアクセルを踏むとツブギアをホールドしたままグングンと加速するのは流石、「ロッキーオート」の作品だ。

むろん、快適性の実現はパワーユニットだけではない。空調もまたオートエアコンが採用され、どんな状況でも常に快適な室温を保持してくれるのだ。



1974年製ニッサン・フェアレディZに搭載されている。トヨタ製の2Jエンジン、3.0リッター直列6気筒DOHC24に過給機を加え、バンチのあるパワーが魅力的だ。RBエンジンに比べると低速域のトルクが太いのが特長のひとつ。

ダットサン・240Zのエンジンは1993年型のV型8気筒の5.7リッターエンジン「LT1」をベースに高度なチューニングが施されたもの。カロリーに合わせて巨大なコアを持つラジエーターと電動ファンによって4.0リッターV8エンジンが発生させる熱を処理している。

ケンメリR仕様に搭載されているトヨタ・1UZ-FE。エキゾーストパイプはワンオフのスペシャルメイドで、巧みに配管されている。アルミ製ラジエーターと2基の電動ファンによって4.0リッターV8エンジンが発生させる熱を処理している。

J D M へ の 新 し い 挑 戦

最後に紹介するのは1974年製ニッサン・フェアレディ240Zだ。レーシーなスタイルへと変貌を遂げたこの車両は、トヨタ製の2Jエンジンを搭載したカスタムモデルである。

ご存知2Jエンジンは1990年代のトヨタ・スープラなどに搭載された3.0リッター直列6気筒DOHC24バルブエンジンで、いまだにチューニングカーのベースエンジンとして人気が高い名機である。高人気の理由はサイズアップしやすいことに加え、

高出力化に対する余裕の大きさなどが理由として挙げられる。

この個体もまた過給機でパワーを稼ぎ、400馬力を軽く超える実力を誇る。さらに目を惹くのがS30Zでは考えられない超ワイドなタイヤ。フロントは235/R18、リアは285/R18と大径&ワイドタイヤで踏ん張りの効いた足下を作り出している。しかも、パワーステアリングが採用されていることから、ワイドタイヤの操作も驚くほど軽々で、S30Zとは思えないほどの高次元なハンド

リング性能を実現している。

この個体は、さらに大型のラジエーターを搭載したことでのクーリング性能も確保し、例え渋滞に巻き込まれてもオーバーヒートの心配がないほど、日常での使い勝手を重視して仕上げられている。速いだけでなく、いつでもエアコンを快適に効かせることができると、国産旧車とは思えない快適・快速仕様といえるだろう。

それにしても、この3台を通して浮かびあがってくるのは、JDM(Japanese

Domestic Market)への新たな挑戦だ。「ロッキーオート」の作品は、いずれも従来のJDMとは異なる手法でモディファイされたものばかりであり、まさに捷破りの仕掛けが各所にふんだんに盛り込まれている。

頑なにオリジナル至上主義を貫く国産旧車の世界に、「快適・快速仕様」の車両がどこまで受け入れられるのかはわからないが、少なくとも「ロッキーオート」が作成する作品なら、オーバーヒートを心配しながら渋滞でハラハラ・ドキドキしたり、高速道路

で軽自動車に追い抜かれるなんてことは無縁となるだろう。現代の技術を用い、最新のモディファイを加えた国産旧車は、今や国内だけではなく、遠く中東や欧米からも注目を浴びている。『ロッキーオート』が生み出す作品には、国産旧車の新しい世界が詰め込まれているのだ。



Unlawfully Machines
“異法改造”



Rocky Auto



旧車・名車の専門店「ロッキーオート」。代表の渡辺氏の手腕により、快適・快速な国産旧車が生まれる。

愛知県岡崎市小美町字殿街道153
Phone 0564-66-5488
<http://rockyauto.co.jp/>

German Design 技術と伝統の国ドイツの逸品

GoodsPress 1月号 増刊 Cal

200

Cal

[キャル]

特別付録

2016年
クラシック
フォード
カレンダー

#07
2016

定価 1000円



Camp Vibes

キャンプ気分で楽しむ家 / 薪とトラックの話 / アメリカの家に憧れて